

## 連続講演会「知舞い学躍る。大妻の空、大妻の夏」

### 変る身体観、変る人文学

高山 宏 氏（大妻女子大学副学長）

日時：平成30年 8 月 4 日（土）15：00～16：30

場所：多摩キャンパス7号館

（講演教室は、当日、掲示にてご案内いたします）



#### <講師紹介>

高山 宏（タカヤマ ヒロシ／TAKAYAMA Hiroshi）

大妻女子大学副学長。東京大学卒業。

文学のみならず、美術、建築、文化史、思想史、哲学等、諸々の学問領域を「横断」した各種論文、エッセイを執筆。

マニエリスムのような独特の文体と領域を超越した「連想」により、近世以降の欧米文化史を、巨視的に捉えつつ修辞を駆使する一連の著述により、各方面に多大な波紋を呼ぶ。異端の人文学者、学魔とも称される。

#### <講演概要>

某国大統領がマスコミが流す情報はフェイク、嘘だ、でっち上げだと吼えまくって、一挙に現代を語る最大のキーワードがトゥルース(真理・真実)になり、ファクト(事実)になり、確たる真実などない現代をポストトゥルースの時代、ポストファクチャルの文化と呼ぶことになっている。が、大元のトゥルース自体が普遍的なものではない。17世紀から登場して来た歴史的な観念で、正しいこと、確かなことが一番とするこの倒錯文化の四百年かけての展開を「近代」と呼んで良いと考える。この四百年のほころびが20世紀末から現在に至るポスト近代と呼ばれる半世紀に露呈し、学問・学術自体がこの未曾有の事態に混乱し、翻弄されている。半世紀前の知識や学問のあり方では全く捉え切れないほど現実が混沌とし、とは即ち他面から見ると多重化し、豊穡になったからである。「近代」がとりわけ目の敵にしてきた「身体」の多面と猥雑に理論・実践両面で深く関わる他ない多摩キャンパス人間関係学部を最適の舞台として、身体文化論者2名、サブカルチャー論者2名最強の布陣で問題提起してみよう。